



介護職における倫理と法令遵守

始めに

倫理は覚えるものではありません。

医療・介護に従事するうえで基本として身につけているものが倫理であり、従事者は多くの倫理的姿勢に対して共通する倫理原則を持ち、自らの仕事に反映させているはずで、これができていなければ介護従事者としての職務を果たすことはできないからです。

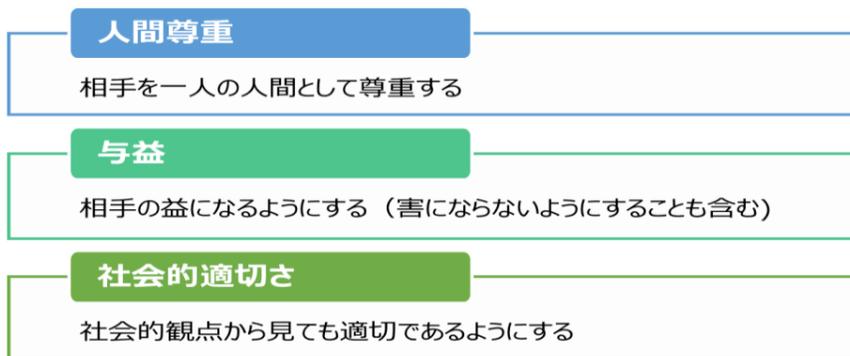
そのため、介護倫理の研修の目的は、研修に参加することでその必要性を改めて感じてもらい、職員の自発性を引き出し、自ら興味を持ってもらうことです。

つまり、介護倫理とは、質の高いケアを提供するための「考え」や「行動」の指針ということなのです。

介護倫理

介護倫理には3つの原則があります（図1）。この基本原則を柱にして介護士はこの仕事に従事しているわけですが、実に様々な理由で、この柱がぐらぐらと揺らいでしまいます。例えば「疲れ」や「ストレス」、「職場の人間関係」など。

〔図1〕



モラルが揺らぐとルールも破りがちになるのが人の弱いところ。

法令（ルール）ははっきりしています。守るか守らないか、2つの選択しかありません。個々のモラルにゆだねて問題が発生するケースには、ルールを作ることが必要です。モラル違反を罰することは非常に難しいですし、不確かな個人の倫理観に頼っても、施設の規律は保てないからです。

さらに言うと、ルールであればそれをなぜしなければならないのかを理解させる必要はありません。ルール違反には罰則があることを理解してもらえさえすればよいのです。

なぜルールが必要なの？

ルールが必要な理由は

- 生まれた場所や育った環境が違う
- 性格や価値観が違う
- 得意不得意がある
- 入職した理由が違う

など様々あります。

このように、「人は一人一人違う」ということをふまえると、個々のモラルでは統制が取れないことは一目瞭然です。

法定遵守の取り組み

【事例を使った研修】

面白半分やちょっとした悪乗りが大変な問題に発展してしまったケースを紹介し、モラル欠如の怖さを理解させる方法です。

事例を紹介した後は、この事例の何が問題なのかをグループで討議してもらいましょう。そして、このような研修を毎月行うようにして職員の意識をすこしずつ変化させるのです。

この研修で大事なのは、「自分の親が同じ目に会ったらどう思うか」など、具体的にイメージして考えてもらうことです。

【個人面談を実施する】

上司が職員とコミュニケーションを取り、一人一人の悩みや思いに耳を傾けられるよう、定期的に個人面談を実施します。

そして、会話の中で個々の価値観を確認し、コンプライアンス的に問題があると感じた場合は軌道修正を図るような働きかけを行うなど、違反を未然に防ぐ取り組みを施設内で徹底しましょう。

施設に相談窓口を設置するのも対策のひとつです。

その他、尊厳あるケアを提供するための取り組みは以下の通りです。

- スタッフの目標と目的を明示する
- 繰り返し研修を実施する
- 職員同士でチェックしあう
- ストレスチェックを義務化する
- 利用者（患者）の家族会を開く
- 他施設への見学

介護倫理とは、「個人の尊厳」を尊重し、適切な行動をとること。

その「個人の尊厳」を守るためには、まず利用者の出来る限り全てを知ることです。

利用者がどんな環境で、どんな生活を送ってきたのか、最近の生活だけでなく、生まれてから今までの環境、当時の時代背景・好んできたもの、家族や友人たち、大事にしてきたものたち、大切な思い出…、それら全てを出来る限り把握すること、それこそが原点なのです。

ですからまず、たくさんコミュニケーションをとり、その人の話に耳を傾けることが大切です。色々な話をして、色々な事を知り、色々な事を学び、その人の全てを愛し、尊敬すること。

倫理的思考は、そこからはじめて生まれるのではないのでしょうか。

〔図2：ルール・マナー・モラルの違い〕

項目	ルール	マナー	モラル
判断基準	規則	礼儀	善悪
対象範囲	限定的（範囲は明確）	限定的（範囲は曖昧）	網羅的（日常の全て）
対象者	その場（※）の全員	個人による	全員
特性	決められたことに従うもの	慣習に従うもの	個人の自発的な思考によるもの
効力	絶対的であり、罰則を伴うことがある	罰則はなく、気にする人と気にしない人がいる	罰則はなく、個人の考え次第である
判断のしやすさ	判断基準が明確なため、判断しやすい	相手の人や環境によって判断が異なるため、判断しにくい	判断が個人の考え方（善悪の判断）に依存していて、判断するために考えること自体が難しい
目的	社会の秩序を保つため	円滑な人間関係を築くため	みんなが幸せに生きるため

✦ マイスター第9号認定 特別養護老人ホームほなみ様 ✦

今回光洋マイスターに認定されたのは、群馬県前橋市にあります「特別養護老人ホームほなみ（以下ほなみ）」様です。

光洋マイスター制度とは、排泄に特化した6つの項目（メカニズム・スキンケア・認知症ケア・ポジショニング・アセスメント）を体系的に学んでいただき、現場で個別ケアアプローチの実践を行い、候補生から職員へ研修を実施、最後にテストと全職員への浸透度をチェック表を使って分析し、合格基準を満たした施設に光洋が「排泄のプロフェッショナル」として認定する制度です。

ほなみ様では昨年3月に職員様へのマイスター制度の説明会を開催、自薦にて参加された候補生さんとともに、2021年5月28日より施設全体の取り組みとして研修がスタートしました。

コロナ禍でなかなか対面での研修が出来ず、オンラインや動画などで実施することも多く、候補生の方々のモチベーションの維持が心配でしたが、皆さんのモチベーションは全く下がることなく、常に前向きに取り組んでいました。

そしてすべての合格基準を満点で終え、8月9日に認定式が行われました。

【インタビュー】

ーマイスター研修に参加しようと思ったきっかけは何ですか？

丸橋さん： 関連施設である群馬中央医療生活協同組合が開講している介護職員初任者研修の講師に任命され、教える立場として“今の知識・技術でよいのか”と疑問を感じ、一から学びなおしたいと思ったのがきっかけです。この研修を受けたおかげで自分の知識・技術がいかにか古いものだったかということに気がきました。長く介護の仕事している人はそういう人が多いと思います。

ー研修を行う中で一番大変だったことは何ですか？

大谷さん： 研修で学んだことをスタッフに伝え、納得してもらうことが難しかったです。根拠をもって説明しても普段やっているやり方を変える理由として受け入れてもらえなかったり、なぜ？と聞かれるとこうだからと言い切る自信が持てなかったり。でもスタッフの主張をまずは受け入れて、「とりあえずこの方法でやってみよう」と、一緒に考えながら教えることでスタッフも受け入れてくれるようになりました。今ではスタッフの間で排泄ケアの話合いが自然に行われるようになってきたと感じています。

ー今後マイスターとしてどんな活動を行っていきたいですか？

小川さん： 根拠を持ったケアを皆にしっかり伝えられるようになるため、もっと自分の手技を向上していきたいです。そして、「その人に合ったケア」「スキンケア」「ポジショニング」を提供できるようチーム全体で取り組んでいきたいです。今はケアを行う上で少しでも疑問に感じたことがあったら必ず調べ、解決するよう心掛けていますが、そういったこともチーム全体で話し合っていけるようにしていきたいです。

ーマイスターに期待することは何ですか？

萩原施設長： まずは2期生の良き相談役になってほしいと思います。メンバーに根拠を伝え理解を得て、現状の課題への対応に結びつけることの難しさは1期生はよく知っていますから、その役割を立派に果たしてくれることと思います。

それから、この取り組みのおかげで職員の意識が、現状の支援に疑問を持ち、改善することに向けてきているようなので、施設での排泄支援の方針を確立してもらいたいと思います。また、2期生には1期生のサポートを武器に、学んだことに自信を持って、より良い排泄ケアの追求に取り組んでほしいと思います。そして、進んで研究発表にも挑戦して欲しいです。

最後は、3期生へもバトンが渡ることを願っています。

ほなみ様の施設理念は「ともに笑顔、ともにしあわせ、ともにまちづくり」。その実現に向け、これから排泄ケアのプロとして大いに活躍してください！



左から
小川義則さん
萩原施設長
大谷良枝さん
丸橋友美さん

施設で眠っていませんか？ “差し込み便器”

紙おむつと差し込み便器の合わせ技

差し込み便器は、布おむつ時代から続くロングヒット商品ですが、見たことはあるけど使ったことは無い、という方が多いのではないのでしょうか？怪我や病気でトイレに行くことが出来ない患者さんがベッド上で排便する排泄用具という位置づけで認識されている方も多いと思います。

しかし、例えば寝たきりでおむつを着用している方でも差し込み便器の使用は可能です。今回はそんな差し込み便器の正しい使い方についてご紹介いたします。

対象者の選定と使用メリット

対象者は主に“便意・尿意がある方”“即効性のある坐薬・浣腸を使用していて排便の予測可能な方”になります。特に排便のタイミングで差し込み便器を使用し、適切なポジショニングをとることで、①腹圧がかけやすくなる②肛門・直腸角度が緩くなり便が出しやすくなる③便器に便が溜まるので、衣類やシーツへのもれがなくなる、等々良い事づくめです。

差し込み便器の使用方法

そんな便利な差し込み便器の使用手順は右記のとおりです。

【お尻をあげられる方】

両膝を立ててお尻をあげてもらい、利用者の仙骨に自分の指を添えて目印にします。右画像赤丸部分に仙骨がくるよう便器をあてたらお尻をおろしてもらいます。

【お尻があげられない方】

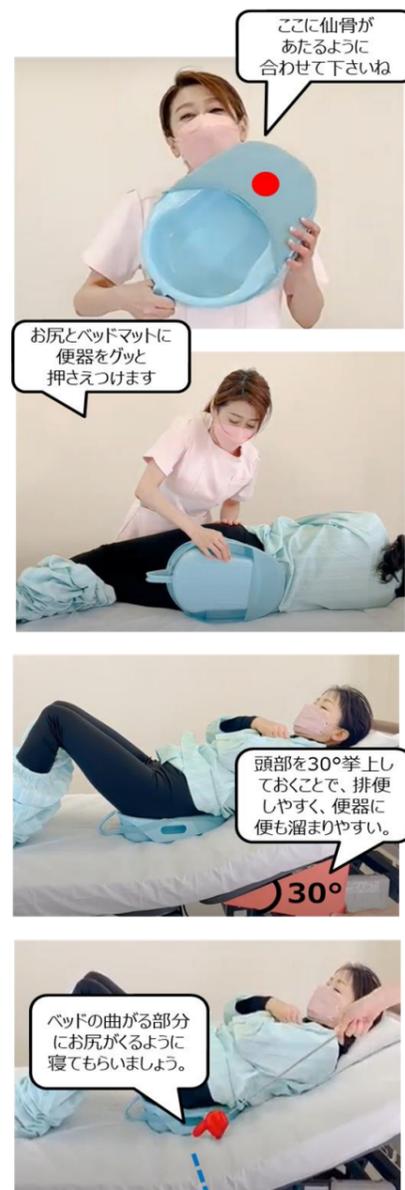
～合わせ方～

頭部挙上した時にベッドが曲がる位置にお尻がくるように寝てもらい、ズボンが汚れないよう膝下までおろしたら、右の画像の通り実施してください。

～外し方～

ベッドの頭部挙上を元に戻し、陰部洗浄（または清拭）を行い、便器の奥側のリム（便器端部分）をベッドに押しつけながら対面側臥位になってもらいます。そして臀部の水分をペーパーでふき取ったら差し込み便器を外し、フタをします。

施設でもし眠っている差し込み便器があるなら、活用しない手はありません。ぜひ参考にしてください！



ここに仙骨があたるように合わせて下さいね

お尻とベッドマットに便器をグッと押しつけます

頭部を30°挙上しておくことで、排しやすく、便器に便も溜まりやすい。

ベッドの曲がる部分にお尻がくるように寝てもらいましょう。

差し込み便器の使用手順動画

